



# む け 無 憂 華

浄土真宗本願寺派正念寺  
常陸太田市久米町20-1  
発行：正念寺護持会

電話：0294-76-2058  
FAX：0294-76-0169

## お彼岸を迎えるに当たって

まもなくお彼岸がやってきます。春と秋にあるお彼岸。このお彼岸って一体何でしょうか？お墓参りをする日？春分の日・秋分の日があるから、休むのための日？じつは、春分の日・秋分の日に関して言えば、これは法律で定められた日であり、そこには、『春分の日（春分日）は「自然をたたえ、生物をいつくしむ」祝日、秋分の日（秋分日）は「祖先をうやまい、なくなった人々をしのぶ」祝日』と書いてあります。言ってみれば、動植物を敬い、ご先祖を偲ぶ日であると法律では定められているということです。

また、お墓参りをする日？とも書いたように、お盆と共に日本全国で一斉にお墓参りがされる日でもありますね。まあ寺の立場から言えば、お墓参りは常日頃からしていただきたいものですが。とは言え私のいのちが、ご先祖方はもちろん沢山のいのちに支えられたものであることを、実感として受け取っていただけると幸いです。

さて、彼岸という言葉は、古代インドの言葉「パーラミタ（波羅蜜多）」に由来する言葉で、本来は煩惱が無い悟りの世界という意味があり、「到彼岸（とうひがん）」と訳されました。つまり、私たちが生きている世界を此岸（こちら側の岸）」と呼び、此岸に対しての仏陀の住む世界（悟りの世界）である彼岸に至る、ということになります。私たちの世界には、様々な欲望や苦しみという「煩惱」にあふれており、そこから解放された境地に到る（悟る）ことが、「パーラミタ（波羅蜜多）=到彼岸」ということでした。これが、日本で先祖を崇拝するという習慣と結びついて、日本の彼岸という習慣が生まれたと言われております。

この彼岸の時期には、宗派を問わずいろいろなお寺で「彼岸会法要」がお勤まりになっています。当正念寺でも「お中日の午前10時」から行ってはいるのですが、正直なところお参りはほとんどありません。同時刻に境内墓地にお参りに来られた方に声をかけて、本堂に上がっていただくことがある程度なのが残念なのですが、この「彼岸」という行事を通して、感染症の問題で人と人との係わりが薄くなっている現在だからこそ、改めて「いのち」

について考えていただくと有り難いことです。またこういう行事は、「お彼岸」について子供さんやお孫さんとお話をされる良い機会だろうと思います。どうしてお墓参りに行くの？おじいちゃん・おばあちゃんは、亡くなったあとどこに行ったの？などいろいろな疑問が出てくるのではないのでしょうか。是非、そういうお話を通して、改めていのちの繋がりをお子様やお孫様と感じ合っただけでいいのでしょうか。さらには、そういう繋がりを通して、彼岸会法要のお参りが増えて下さると、なお有り難いことです。



仏  
説  
阿  
弥  
陀  
經

(第5回)※ご法事でよく使われる「仏説阿彌陀經」を現代語訳しています。

舍利弗よ、そなたはどう思うか。なぜこれを〈全ての仏がたがお護りくださる經〉と名づけるのだろうか。

舍利弗よ、もし善良なものたちが、このように仏がたがお説きになる阿彌陀仏の名とこの經の名を聞くなら、これらのものはみな、すべての仏がたに護られて、この上ないさとりに向かって退くことのない位に至ることができる。だから舍利弗よ、そなたたちはみな、わたしの説くこの教えと、仏がたのお説きになることを深く信じて心にとどめるがよい。

舍利弗よ、もし人々が阿彌陀仏の国に生れたいとすでに願ひ、または今願ひ、あるいはこれから願うなら、みなこの上ないさとりに向かって退くことのない位に至り、その国にすでに生れているか、または今生れるか、あるいはこれから生れるのである。

だから舍利弗よ、仏の教えを信じる善良なものたちは、ぜひともその国に生れたいと願うべきである。

舍利弗よ、わたしが今、仏がたの不可思議な功德をほめたたえているように、その仏がたもまた、わたしの不可思議な功德をほめたたえてこのように仰せになっている。

（釈迦牟尼仏は、世にもまれな難しく尊い行いを成しとげられた。娑婆世界はさまざまな濁りに満ちていて、汚れきった時代の中、思想は乱れ、煩惱は激しくさかんであり人々は悪事を犯すばかりで、その寿命はしだいに短くなる。そのような中にありながらこの上ないさとを開いて、人々のためにすべての世に超えすぐれた信じがたいほどの尊い教えをお説きになったことである）

舍利弗よ、よく知るがよい。わたしは濁りと悪に満ちた世界で難しい行を成しとげ、この上ないさとを開いて仏となり、すべての世界のもののためにこの信じがたいほどの尊い教えを説いたのである。このことこそ、まことに難しいことなのである」

このように仰せになって、釈尊がこの教えを説きおられると、舍利弗をはじめ、多くの修行僧たちも、すべての世界の天人や人々も、阿修羅などもみな、この尊い教えを承って喜びに満ちあふれ、深く信じて心にとどめ、うやうやしく礼拝して立ち去ったのである。

仏説阿彌陀經(終)

## ホームページのご案内

正念寺ではホームページがございます。常陸太田市・正念寺で検索していただきますと「正念寺」のホームページが出てきます。

ホームページには、今までの寺報やちよつとした仏教の話、寺の縁起などもあります。

スマートフォンなどからは、右記QRコードを読み込んでください。



4ページ「これからの行事予定」にも書いてありますが、7月28日に二代目柳家かゑるさんを迎えて落語会を開きます。

全国の子どもたちに落語を届けたいという思いから、料金を決めるのではなく投げ銭方式で行いたいということです。

夕方5時位からになりますので、親御さんもご一緒に来ていただいで、一緒に楽しみませんか。

柳家かゑるさんは、2007年に「柳家獅堂」さんの元で落語の世界に入り、現在は「6代目柳家小さん」さんのお弟子となって頑張っている方です。

# 参れ～寺カード10ポイント達成報告

## 参れ～寺20ポイント達成者



安 二郎様 井坂 友之様

## 参れ～寺10ポイント達成者



岩間 猛様



清掃奉仕・仏具お磨き光景



### 清掃奉仕参加者名

- 井坂 久美子様
- 井坂 豊子様
- 井坂 ヨシエ様
- 石川 明美様
- 石川 桃代様

### 仏具磨き参加者名

- 會澤 順一様
- 井坂 照雄様
- 井坂 ヨシエ様
- 小坏 一恵様
- 埴 光二様
- 埴 ゆみ子様

2月22日に行われた法要前の本堂清掃並びにお仏具磨きの奉仕作業に出席下さいました方々、大変お疲れ様でした。

法要前ばかりでなく、他の月も出席下さっている方もいらして、大変有り難く存じます。

感染症の問題が出る前は、奉仕作業の終わったあとは、皆さんと一緒にお茶を飲んだり出来たのですが、今はなかなか状況が許さないところがあって、そういう時間が持てないことは大変残念です。今までもそういう時間の中で、色々なことに気づかされたこともありました。正念寺でも、法要やご

法事のウェブ配信なども行ってありますが、やはり顔を合わせて話す機会は、非常に大切なことだと、この様な感染症を経験する中で、改めて思い知らされたことです。

今後も感染症の問題はあっても、奉仕作業は続けていきたいと思えます。どうぞ沢山の方のご協力をいただけますようお願いいたします。



## 感謝録

ご寄付を戴きました事に感謝を込めてご報告  
させて戴きます。

慈光院釋春陽永代経として

金 10万円

根本 志郎様



## これからの行事予定

- |               |           |
|---------------|-----------|
| 3月21日(日)10時～  | 彼岸会法要     |
| 11時～          | 久遠廟法要     |
| 4月 8日(金)10時～  | 聞法会       |
| 4月10日(日)14時～  | 花祭りコンサート  |
|               | 歌手 天下井朱海様 |
| 4月26日(火) 9時～  | 清掃奉仕      |
| 5月 8日(日)10時～  | 聞法会       |
| 5月31日(火) 9時～  | 清掃奉仕      |
| 6月 8日(水)10時～  | 聞法会       |
| 6月28日(火) 9時～  | 清掃奉仕      |
| 7月 8日(金)10時～  | 聞法会       |
| 7月26日(火) 9時～  | 清掃奉仕      |
| 7月28日(木)17時頃～ | 落語会(子供中心) |
|               | 柳家かゑる様    |
| 8月 2日(火)13時半～ | 仏具磨き      |
| 8月 9日(火)10時～  | 常陸太田地区    |
| 歓喜会法要 14時～    | 那珂地区      |
| 8月16日(火)11時～  | 久遠廟法要     |
| 8月30日(火) 8時～  | 清掃奉仕      |

### 住職雑感

永代経法要に雪が降り、  
参拝できない人が出たり講  
師の方がお越しになれないという事があった  
為に、3月に法要の日程を変更してから既に6  
年になります。日程変更後、雪で困ることは  
なくなったのですが、この2年は感染症の問題  
で参加者を制限せざるを得ないことが、本当  
に残念です。

昨年10月くらいから今年の1月上旬くらいま  
ではだいぶ落ち着いており、このまま行って  
くれると良いな、と思っていたのですが、オ  
ミクロン株の流行によって、再び我慢の日々  
が続いています。正直いつ収まるかわからな  
い状態ではありますが、明けない夜はないと  
いうように、これもいつか収まっていくので  
しょうが、先の見通せないことが、私たちに  
不安を起こさせるのだと思います。

親鸞聖人のお言葉に「悪を転じて徳と成す正  
智」と言うものがあります。この感染症を切っ  
掛けに様々なことが変わりました。今後もこ  
の変化をさらに良いものとしていけるようお  
互い努力を続けたいものです。